ベネズエラ情勢（内政・外交：令和元年１１月）

１　内政

（１）　国会

（ア）　５日，全国選挙評議会（ＣＮＥ）メンバーの選出に責任を負う委員会のメンバーを選出するための予備委員会が発足し，１１名中９名が任命。うち６名は野党，３名が与党（ＰＳＵＶ）からの任命。

（イ）　６日，同委員会の残り２名の任命は週明け１１日に行い，その後，委員会が正式始動すると発表。

（ウ）　１２日，国会は，選挙権組織法に基づき，全国選挙評議会（ＣＮＥ）委員の選出に責任を負う選出委員会委員を選出するための予備委員会委員として，残りの２名を含め，国会議員１１名（野党議員７名及び与党議員４名）を任命し，１３日，同予備委員会が発足。

（２）　グアイド暫定大統領とパラミリタリー組織との関係に関する与党側の発表

６日，ホルヘ・ロドリゲス副大統領兼通信情報大臣は，記者会見を開き，同年２月２３日の人道支援搬入に際してグアイド暫定大統領のコロンビアへの入国を支援したとされるコロンビアのパラミリタリー集団「ロス・ラストロホス」幹部の一人が，１日，ベネズエラ当局に拘束されたことに関して，同幹部の証言ビデオを放映すると共に，グアイド暫定大統領と同パラミリタリー集団との関係について発表。

（３）　１６日の与野党デモ

（ア）　１６日午前，デモ開始前，野党デモの一部ルート（与党デモのルートとの重複ヶ所）において，国家警察が，道路封鎖のため，野党デモ参加者に対し催涙ガスを使用。

（イ）　カラカスの野党デモにおいて，グアイド暫定大統領は，権力のさん奪の終了／移行政府／自由選挙の３つの目的を達成するまで，活動を継続しなければならない，ボリビアでの事案（モラレス前大統領の辞任）が象徴的な意味を持つとして，在ベネズエラ・ボリビア大使館前まで行進を継続。同大使館前において，グアイド暫定大統領は，ボリビアは民主主義を守るための活動を達成したシンボルであり，現在アニェス・ボリビア暫定政府と，外交代表の信任に関して話していると述べた。

（ウ）　同日，与党も，カラカスにおいて，ボリビアへの支持と反帝国主義を訴えるデモ活動を行った。マドゥーロ大統領は，電話を通じ，反帝国主義とエボ・モラレス大統領への支持を改めて表明。

（エ）　１７日，グアイド暫定大統領側は，デモは全国の州において実施されたと発表。同日，ＮＧＯ団体は，１６日のデモ（地方）で１３名が逮捕されたと発表。

（４）　国民対話（Mesa Nacional）

（ア）　１８日，国民対話（政府と少数野党が参加している対話メカニズム。主要野党は関与していない。）は，政府と会合を実施。マドゥーロ大統領のほか，デルシー・ロドリゲス副大統領，ホルヘ・ロドリゲス通信文化担当副大統領，イストゥリス社会開発・社会ミッション革命担当副大統領らが参加。

（イ）　同日，グアイド国会議長・暫定大統領は，マドゥーロ大統領が野党を混乱させようとしている，と非難。

（ウ）　２６日，ホルヘ・ロドリゲス通信文化担当副大統領及びイストゥリス社会開発・社会ミッション革命担当副大統領は，国民対話に参加している少数野党の議員であるクラウディオ・フェルミン議員（Soluciones para Venezuela 党），ティモテオ・サンブラノ議員（Cambiemos 党）と会談。

（５） 国軍諜報局（Dgcim）による電子報道機関の一時占拠

（ア） １９日夕方，Caraota Digital,VPI TV などのインターネット報道機関の本部が所在するビルに国軍諜報局（Dgcim）が押入り，報道関係者４名を拘束し，テレビカメラや携帯などの電子機器を押収。同日夜には，全員が解放されたものの，押収された電子機器は返却されなかった。

（イ） 同日，グアイド国会議長・暫定大統領は，記者ら報道関係者に対する支持を表明するとともに，独裁者たちは真実に対してパニックになっている，と自らのツイッターに投稿。

（６） 与野党学生デモ

（ア） ２１日，与野党の呼びかけによる学生デモがそれぞれ行われた。野党側の学生によるデモは，午前１２時１５分頃，ベネズエラ中央大学に集結した各大学の学生が，フエルテ・ティウナ国軍共同地区に向けて行進を開始。目的地から離れた場所において，治安当局による道路封鎖が発生するも，学生グループの代表が国軍に対する嘆願書の手交を希望し，代表５名が嘆願書を手交することができたことで，午後２時過ぎ，デモが終了。

（イ） 活動の中心となった中央大学学生連盟の会長は，「現場の軍人を通じ，国軍に対し我々の要請を伝えるという目的を果たした。我々は，街頭でのデモ活動を今後とも継続する。」と述べた。

（ウ） グアイド国会議長・暫定大統領は，ツイッターを通じ，「本日，学生達は街頭に出て，国軍にメッセージを伝えた。我々は皆共にいる。ベネズエラ人として我々を団結させる闘争である。」と投稿した。（※グアイド国会議長・暫定大統領は，学生のデモ行進には姿を現さなかった。）

（エ） 与党側のデモに参加した学生等は，フエルテ・ティウナ国軍共同地区内の広場において，音楽コンサートを楽しんだ。マドゥーロ大統領は，行進の最終地点における特設会場に登場し，演説を行い，学生に対する奨学金等を発表するなど，平和裏に終了。

（７） 他国の国会議員の当地訪問及び国会審議への参加

（ア） ２５日，スクレ国会外交委員長は，当地を訪問したフィリッポ・ロンバルディ・スイス上院議員と会談。

（イ） ２６日，スペイン，アルゼンチン，コスタリカ，ニカラグア，イタリア，スイスの国会議員が当国を訪問し，イタリアとスイス以外の国会議員は国会審議に参加。参加した国会議員が発表したマニフェストでは，国会及びグアイド国会議長・暫定大統領への支持，権力を不当に奪っている体制の政策の結果への遺憾の意の表明，国会議員及び関係者への迫害等の体制側の行為への非難が示された。国会は，招待議員によるマニフェストを承認。

（ウ） ２６日，スペインの国会議員（４名）は，グアイド暫定大統領と会談。会談の目的は国会及び暫定政府に対する支持の強化及びその他の国がグアイドを承認するためのアクションの一部と述べた。

（エ） ２６日，アレアサ外相は，ピエル・フェルディナンド・カシニ・イタリア上院議員と外務省において会談。会談において，二国間の政治的関心に基づく様々なテーマについて議論。

（オ） ２８日，マドゥーロ大統領は，カシニ・イタリア上院議員と会談。

（カ） ３０日，カシニ上院議員は，人道的アクションのための交渉の結果として，同上院議員に同行する形で在ベネズエラ・イタリア大使館に避難していたアメリコ・デ・グラシア議員及びマリエラ・マガジャネス議員が

イタリアへ渡航し，亡命者として受け入れられた。

（８） グアイド暫定大統領による駐コロンビア・ベネズエラ「大使」の解任

（ア） ２７日，グアイド暫定大統領が，カルデロン駐コロンビア・ベネズエラ「大使（外交代表）」を解任。

（イ） グアイド暫定大統領発カルデロン大使宛書簡（２６日付）には，「（ボルヘス）外交担当大統領コミッショナーとの協議に基づき，我々の正統な政府の目的の達成のために外交政策を修正することを決定した。この意味において，新たな駐コロンビア・ベネズエラ大使を任命することを決定した。」と記載。

（ウ） なお，報道によれば，カルデロン元「大使」は，コロンビアのククタにおける人道支援に関する汚職疑惑への関与が指摘されている。

（９） 停電関連報道

（ア） ３日夜，８州（アラグア州，アンソアテギ州，カラボボ州，メリダ州，モナガス州，スクレ州，タチラ州，スリア州）において停電が発生。

（イ） ４日，７州（アラグア州，ララ州，スリア州，カラボボ州，アンソアテギ州，バリナス州，タチラ州）で停電が発生。数時間程度で復旧するも，夜間に再度停電した地域もあり，断続的な停電が続いている。

（ウ） １９日，地方８州において，一部で停電が発生。

（１０） 各種抗議活動

（ア） １２日～１４日，ベネズエラ教師連盟を中心に，教師による全国スト（７２時間）が行われ，教育環境の改善，賃上げ等を訴えた。

（イ） １４日，グアイド暫定大統領は，ベネズエラ中央大学での集会に参加し，学生に対し，１６日のデモへの参加を求めた。グアイド暫定大統領との集会後，同大学に集結していた各大学の学生はデモ行進を開始しようとしたが，大学の出入り口で待機していた治安当局により通行を阻まれ，学生はデモ行進を継続するために，治安当局ともみ合いになり，治安当局は催涙ガス等を使用して同デモを鎮圧。大衆意志党青年部コーディネーターは，ゴム弾により２名の負傷者が発生したとツイッターに投稿。

（ウ） １９日，看護師等の医療関係者がカラカスにおいて抗議活動を実施。

（エ） ２０日，医療関係者及び年金受給者等がそれぞれ，小規模な抗議活動を実施。

（オ） ２３日，グアイド国会議長・暫定大統領は，２５日に市民レベルによる街頭デモを召集。

（１１） その他

（ア） ２日及び３日，グアイド暫定大統領は，モナガス州を訪問し，１１月１６日のデモへの市民の参加を求めた。

（イ） ９日，グアイド暫定大統領は，ララ州を訪問し，１６日のデモへの参加を呼びかけた。

（ウ） １２日，マドゥーロ大統領は，１１月１４日から１２月３１日まで，民兵による街頭パトロール強化を発表。同時に，制憲議会に対し，民兵を憲法に規定するよう要請し，また，国軍から民兵に対して，３２万１，４３３丁の銃が配布されると発表。

（エ） １５日午後，大衆意志党本部に武装集団が押し入り，携帯等を奪って逃走。野党側は，マドゥーロ体制が脅迫のために行ったと非難し，１６日のデモへの参加を再度呼びかけた。

（オ） ２４日，ボルヘス外交担当大統領コミッショナー（野党）は，自らのツイッターを通じ，「ボリビアでは，

国民，国際社会，国軍が独裁者を制止し民主主義の回復のために団結した。全てのベネズエラ国民は，自由を獲得するためにボリビアから発想を得なければならない。」と投稿。

（カ） ２５日，エクトル・ロドリゲス・ミランダ州知事は，これまで地方自治体が行っていた罰金の徴収を，今後コミューン単位で行うことの是非を問う住民投票を１２月１日に実施すると発表。１５歳以上の住民が投票権を持ち，８２５の投票所が設置される由。

（キ） ２７日，国軍作戦戦略司令部（Ceofanb）は，不審な航空機がスリア州北部方面から南下し領空に侵入し，説得に応じず逃亡したとして同航空機を無力化したと発表。麻薬の密輸を行っていたと断定。

（ク） ２７日，アンソアテギ州バレンシアで行われた空軍の日を記念して実施された式典に，マドゥーロ大統領が出席。コロンビアが，空軍に対する４７の攻撃の共犯者であると発言。

２　外交

（１）　エルサルバドル・ベネズエラ二国間関係

（ア）　２日，ブケレ・エルサルバドル大統領が，エルサルバドル政府はマドゥーロ体制の正統性を認めないとして，同国に駐在するベネズエラ外交官の４８時間以内の国外退去を命じた。

（イ）　３日，当国外務省は，コミュニケを通じ，相互主義の原則に従ってベネズエラに駐在するエルサルバドル外交官に対するPNGを通告し，４８時間以内の国外退去を命じた。

（ウ）　同日，グアイド暫定大統領は，自らのツイッターを通じ，「エルサルバドルが我々の主張に支持を与え，マドゥーロ体制を更に孤立させた。」と投稿し，ブケレ大統領に対し，暫定大統領への支持に対する謝意を表明。

（エ）　同日，コザック米国務次官補代行が，自らのツイッターを通じ，「素晴らしいニュースである。ベネズエラのグアイド暫定大統領を支持する５６か国に，エルサルバドルが加わった。」と投稿。

（オ）　５日，アシア・ビジェガス女性・ジェンダー大臣は，在エルサルバドル・ベネズエラ大使館の公使参事官の妻が妊娠中であったにもかかわらず，エルサルバドル政府による国外退去命令により，危険を冒して航空機への搭乗を余儀なくされたとして，同人に対する人権侵害を訴えた。

（カ）　エルサルバドルの社会運動組織（マドゥーロ派）が在エルサルバドル・ベネズエラ大使館の国有資産を守る目的で，大使館の建物を守ると発表。ベネズエラ政府は同社会運動組織への謝意を表明。

（２）　アレアサ外相の国連総会出席

（ア）　７日，アレアサ外相は，国連総会に出席し，演説。米国のキューバに対する封鎖の解除を求める決議に賛成票を投じ，経済・金融テロ行為並びにキューバ国民の人権を侵害する戦争を止めるよう求めた。

（イ）　８日，アレアサ外相は，グテーレス国連事務総長と会談。ベネズエラ及びキューバに対する米国の一方的かつ強制的な措置に対するアクションをとるよう要請。

（ウ）　１０日，アレアサ外相は，Monica Juma ケニア外相と会談し，二国間関係を強化。また，Amina Mohammed 国連副事務総長（元ナイジェリア外相）とも会談。

（３）　モラレス・ボリビア大統領の辞任に対する反応

（ア）　１１日，モラレス・ボリビア大統領が辞任を発表したことに関し，マドゥーロ大統領は，自らのツイッターを通じ，ボリビアで進行中のクーデターを非難し，国際社会に対し，選挙で表明された国民の意思を尊重することを求め，モラレス大統領に連帯の意と支持を表明。

（イ）　同日，グアイド暫定大統領は，自らのツイッターを通じ，ラテンアメリカに微かな風が吹いていたが，ボリビアでは，自由選挙を求め人々が権利のために街頭で抗議を行い，それはハリケーンへと変わったのである，と表明。ボルヘス外交担当（暫定）大統領コミッショナーは，「ボリビアで今起きたことは，何故ベネズエラでは起きていないのか？その答えはキューバにある。ハバナの体制は，我々の国軍に浸透し，拉致することに成功した。ボリビアで起きたことは，全ての人にとってインスピレーションとならなければならない。ラウル・カストロとディアスカネルから，国の自由を勝ち取るために戦わなければならない。」と投稿。

（ウ）　１１日，当国外務省は，コミュニケを通じ，ボリビアにおけるクーデターを断固として拒絶・非難すると発表。

（エ）　マドゥーロ大統領は，ツイッターを通じ，モラレス大統領に対するクーデターを断固として非難し，ボリビ

アの先住民族の生命を守るために動員を召集。

（オ） １０日，カベージョ制憲議会議長は，モラレス大統領に対するクーデターの責任は米国とＯＡＳにあるとして右を非難，同クーデターへの拒絶とボリビア国民への連帯の表明を目的に１６日にカラカスで動員を行うと発表。

（カ） グアイド暫定大統領は，ツイッターを通じ，中南米で発生しているのは民主的ハリケーンである，ボリビア万歳，と投稿。

（キ） ボルヘス外交担当大統領コミッショナーは，ツイッターを通じ，ボリビアで起きたことは，全ての人にとってインスピレーションとならなければならない，と投稿。

（ク） １２日，マドゥーロ大統領は，モラレス大統領の辞任がベネズエラ及びニカラグアの「正統ではない」政府に対する強い合図となる，とのトランプ米大統領の発言に対し，「闘う準備はできている」と述べた。

（ケ） １２日，カベージョ制憲議会議長は，モラレス大頭領に対するクーデターと同様の出来事は他国においても起こりうると警告。

（コ） １２日，グアイド暫定大統領は，ツイッターを通じ，ベネズエラの正統な政府はヘアニア・アニェスをボリビア暫定大統領として承認すると発表。

（サ） １３日，当国外務省は，コミュニケを通じ，ボリビアのアニェス上院副議長の暫定大統領就任の宣誓が違法であり，断固として拒絶すると発表。

（４） 在ブラジル・ベネズエラ大使館での騒動

（ア） （グアイド暫定大統領側）ベランドゥリア駐ブラジル・ベネズエラ大使発コミュニケは，１３日朝，在ブラジル・ベネズエラ大使館の一部館員は，ベランドゥリア大使側に対し，グアイド暫定大統領を承認する旨連絡し，大使館の扉を開け，大使館を引き渡したと発表。

（イ） ボルヘス外交担当大統領コミッショナーは，（在ブラジル）ベネズエラ外交官は，民主主義の側につき，在ブラジル・ベネズエラ大使館を正統な政府に引き渡したと発表。

（ウ） １３日，当国外務省は，コミュニケを通じ，１３日，在ブラジル・ベネズエラ大使館が，外交使節団の公館と外交官の保護という義務を無視したブラジル警察当局の消極的対応を前に，ベネズエラ野党の暴力集団により占拠されたことを非難。

（エ） 同日，当国外務省は，プレスリリースを通じ，アレアサ外相が，１３日未明にグアイド（暫定大統領）の代表と名乗る２０名によって，在ブラジル・ベネズエラ大使館が暴力的に占拠される事案が発生したが，当局の対応によって，平和的に大使館の裏口から出て行ったと述べた旨発表。

（５） 在ベネズエラ・ボリビア大使館武官への国外退去要請

２０日，外務省は，ボリビア大使館武官に対する接受を取り下げる決定を下し，本措置により，同武官の７２時間以内の国外退去を要請した。

（６） 国民対話代表団のベルギー・イタリア訪問及び国民対話の動き

（ア） ２５日，グアイド暫定大統領が任命したフリオ・ボルヘス外交担当大統領コミッショナーは，国民対話代表団が欧州を訪問することに関し，欧州議会議長，政党リーダー及びバチカンに対して，欧州を訪問するのは，偽りの野党であると警告する書簡を発出したとツイッターに投稿。

（イ） ２６日，国民対話代表団は，ブリュッセルの欧州議会を訪問し，欧州議員に対して，ベネズエラの政治的共存の達成及び２０２０年の国会議員選挙に向けた国民対話の取り組みの進捗を説明。代表団団員のベルトゥッチ変化のための希望（Esperanza por el cambio）党党首は，「一部野党による妨害行為があったが，欧州議会は，国民対話代表団へ関心を持って対応し，国民対話が達成した成果を最初に知ることとなった。」と説明。国民対話代表団と会合した欧州議員の詳細については不明。

（ウ） ２８日，国民対話代表団はイタリア上院議会の外交委員会と会合し，国民対話の成果について説明。同会合には，Petroceli 外交委員長が出席。

（７） その他

（ア） １日付当地エル・ウニベルサル紙は，ブルームバーグの記事を引用して，マドゥーロ体制を支援している疑いがあるとして，米国が，スペイン銀行に対する制裁を検討していると報じた。スペイン政府は，コミュニケを通じ，米国が制裁を検討していることを否定。

（イ） １日，ベネズエラ政府は，外務省コミュニケを通じ，ノルウェー政府の仲介による与野党間対話の再開等を求める国際コンタクトグループの声明（１日付）に関して，ベネズエラにおいて進捗している国民対話に対するＥＵ及び同グループの支持を要請すると発表。

（ウ） １日，グアイド暫定大統領が任命した駐カナダ「大使」であるオルランド・ビエラ・ブランコが，カナダ国家元首代行をつとめるペイエット総督に対し，信任状を奉呈した。

（エ） １日～３日，キューバにおいて「民主主義の連帯及び新自由主義に対抗する反帝国主義」会議が開催され，３日，マドゥーロ大統領は，閉会式での演説において，反帝国主義の代表であるキューバとの友好関係の歴史等について言及。

（オ） ３日，デルシー・ロドリゲス副大統領は，ブラウン・アンティグア・バーブーダ首相と会談。翌４日，同首相はマドゥーロ大統領と会談。

（カ） ４日，アレアサ外相は，ベネズエラを訪問したマーク・ローコック人道問題担当国連事務次長兼緊急援助調整官と会談。

（キ） ４日，ベネズエラ政府と国際赤十字委員会間の協力協定に，バスケス水資源大臣と Leticia Courtois 国際赤十字委員会ベネズエラ代表が署名。同協定を基礎に，今後，共同活動が行われる。

（ク） ５日，米国が新たにセバージョス国軍作戦戦略司令部司令官を含む５名のマドゥーロ政府関係者に対する制裁を発表。６日，アレアサ外相は，米国の制裁に対し，国際法を守らず，好戦的であり反民主的な措置であると述べた。

（ケ） ７日，カラカスにおいて，国際ブックフェアが開幕し，マドゥーロ大統領と本年の特別招待国である中国から駐ベネズエラ中国大使が出席。１７日まで開催される。

（コ） ８日，リマ・グループ会合がブラジリアで開催され，参加国は，武力を用いない個人制裁を通じたさらなる圧力をかけるための措置を採用する等と発表。

（サ） ８日，Sorena Sattari イラン科学技術大臣は，イランが医療チームをベネズエラに送る用意があると表明。ヒメネス科学技術大臣との間で締結した技術協定によるものと発表。

（シ） ９日，収監されていたルーラ・ブラジル元大統領が釈放され，マドゥーロ大統領は，「ベネズエラ国民の名において，喜びと祝福申し上げる」と投稿。

（ス） １０日，駐ボリビア・ベネズエラ大使は，ボリビア野党セクターによって在ボリビア・ベネズエラ大使館が

占拠されたと訴えた。大使館員は避難した模様。

（セ） １１日，ＥＵはベネズエラに対する制裁の１年延長を決定。武器の禁輸及びデモ隊に対して使用される可能性のある道具の売買禁止措置等を含む制裁が，２０２０年１１月１４日まで延長される。

（ソ） １１日，モレノ最高裁長官は，トルコを訪問し，トルコ司法アカデミーと両国の司法教育センター間のＭＯＵ締結に向けた議論を行うため，同アカデミー代表と会談。１４日，モレノ最高裁長官は，トルコ会計検査院長と会談。

（タ） １５日，メキシコにおいてモンテビデオ・メカニズムの参加国が会合。メキシコ，ウルグアイ，トリニダード・トバゴ，バルバドス，カリコムから代表が参加。メキシコは，改めて対話を通じた問題解決を支持。

（チ） ２１日にコロンビア国内で予定されている全国スト（デモ）を扇動・暴徒化させる可能性のあるベネズエラ人等の入国を防ぐため，コロンビア政府は，ククタの国際橋周辺の警備を強化するとともに，同日の国境閉鎖の可能性を検討していると発表。

（ツ） １７日，ボリビア政府がマドゥーロ体制との関係の断絶を発表したことから，在ボリビア・ベネズエラ大使館員１３名が，家族とともにベネズエラに帰国。

（テ） １７日，防空統合司令部（Codai）は，１５日午後，米軍機ＣＮ２３５がマイケティア飛行情報区に侵入したと非難。

（ト） ２０日，プラセンシア貿易・観光大臣は，キューバを訪問し，マレロ・キューバ観光大臣と会談。

（ナ） ２１日，サハロバ・ロシア外務報道官は，米国がマドゥーロ大統領の辞任を切望し続け，不干渉原則を侵害していると非難。

（ニ） ２２日，モレノ最高裁長官は，Li Baorong 駐ベネズエラ中国大使と会談。

（ヌ） ２３日，マドゥーロ大統領は，コロンビアでのデモに対し，「イバン・ドゥケ（コロンビア大統領）は，コロンビア国民の反新自由主義の抗議活動を止めることができなかった。次は，コロンビアの番だ。次は，市民の番だ。」と述べた。

（ネ） ２５日，コロンビア政府は，コロンビア国内におけるデモで破壊活動を行ったとして，５９名のベネズエラ人に対する国外追放を発表。２８日，当国外務省は，コミュニケを通じ，コロンビア政府による同国在住ベネズエラ人に対する不法な国外追放に対する憤りと深い懸念を示した。

（ノ） ２６日，アンドラで開催されたイベロアメリカ会議外相級会合に出席したヒル欧州担当外務次官は，サントス・シルヴァ・ポルトガル外務大臣と会談。同日，同会合に出席したジャネス多国間担当外務次官は，バルガス・ドミニカ共和国外務大臣と会談。

（ハ） ２６日，ミャンマーを訪問中のモリーナ・アジア中東オセアニア担当外務次官は，同国の Soe Han 外務次官と会談。

（ヒ） ２８日，グアイド暫定大統領は，ウルグアイ大統領選挙で当選したラカジェ・ウルグアイ次期大統領へ，自らのツイッターを通じ，祝意のメッセージを送った。同日，ラカジェ次期大統領からも，祝意に対する謝意の表明があった。１１月２９日，グアイド暫定大統領は，自らのツイッターに，「ラカジェ大統領と話した。選挙の勝利に対する祝意を伝え，民主主義メカニズムの保護とマドゥーロ独裁に対抗する闘いの重要性について話した。」と投稿。

（フ） ２９日，カンボジアを訪問したモリーナ・アジア中東オセアニア担当外務次官は，ウイッ・ボリット・カンボジア外務国際協力省長官と二国間テーマに関する議論及び合意を進展させるための二国間ＭＯＵに署名。

（ヘ） ２９日，ピメンテル・アフリカ担当外務次官は，ガス輸出国国際会合のため訪れた赤道ギニアにおいて，エ

ソノ赤道ギニア外相と会談。